

令和6年度

中主中学校のストップいじめアクションプラン

目指す学校像

いじめを許さない 生まない 誰もが安心して過ごせる学校

生徒の主体的な活動

- 生徒会「いじめゼロ宣言」にむけての推進
- ・文化祭での創作劇による啓発活動の実施
- ・人権をテーマにした意見発表会等の実施
- ・生徒会を中心とした「いじめや差別を許さない」「明るく元気な学校生活の推進」にむけての啓発活動の実施
- ・地域行事への積極的な参加や地域貢献活動を通して地域とのつながりづくり

☆「いじめゼロに向けての決議」 H8.8.22
中主町子ども議会決議を基盤に

家庭・地域と連携した行動

- ・学校運営協議会等でいじめ問題への取組に関しての協議
- ・学校評価アンケートのなかで保護者や地域の方対象のいじめに関する項目を実施

教職員の連携行動

- 「いじめを許さない」学校づくりにむけて全教職員が一丸となって発達支持的な関わりを推進する。
- ・すべての学校教育活動の機会において、「いじめは許されない犯罪行為であること」を明言し、悲しい愚かな行為であることを日常から生徒に意識させる。
- ・仲間と学び合い、高め合う授業づくりを通して仲間力を高め、安心して正しいことが言い合える雰囲気醸成する。
- ・いじめの傍観者教育、SOSの出し方など、いじめ防止につながる具体的な行動について生徒と共に考え、生徒自身が実生活で行動できるような学びを推進する。
- ・生徒が主体的にいじめ防止に参画できる活動を推進する。
- 「いじめは起こり得るもの」として捉え、徹底した「いじめ」の早期発見と早期対応に努める。
- ・昼休みや休み時間等において、生徒と時間をかけてふれあうことによって、望ましい信頼関係を構築させる。
- ・「みんなの眼でひとりの子どもを観る」を基盤に、厚みのある組織的な指導体制をはかり充実させる。
- ・学期に1回の教育相談と年間3回の「STOPいじめアンケート」を実施し、いじめ事案を把握しつつ組織的かつ継続的に取り組む。

現状と課題

- ・令和5年度全国学力・学習状況調査の結果より、中学3年生の生活アンケートで「いじめはどんな理由があってもいけない」が100%を示すなど、道徳教育・人権学習や学級経営・部活動指導等、日常的な取組の成果が現れている。
- ・いじめアンケートでは、いじめを見たり、聞いたりしたときに、「何もなかった」と答えた生徒が半数近くに上っている。
- 生徒は、「いじめは許されないこと」だと認識しており、いじめをなくそうとする意識は持っている。いじめアンケートでは、いじめ問題やアンケートについて記述欄に意見を述べる生徒もいる。しかし、いじめに遭遇した場合、毅然と制止したり、教職員に情報を提供したりするまでの行動には高まりきれていない。
- 学習の場において、何でも言える雰囲気、認め合える雰囲気は高まりつつあるが、学年によって差はある。また、いじめにつながる言動に気づいていない傾向もある。
- ・教職員は、さらに人権感覚を磨きつつ、いじめを察知する力を身につける必要がある。また、いじめアンケートの活用や教育相談の一層の充実を図る。